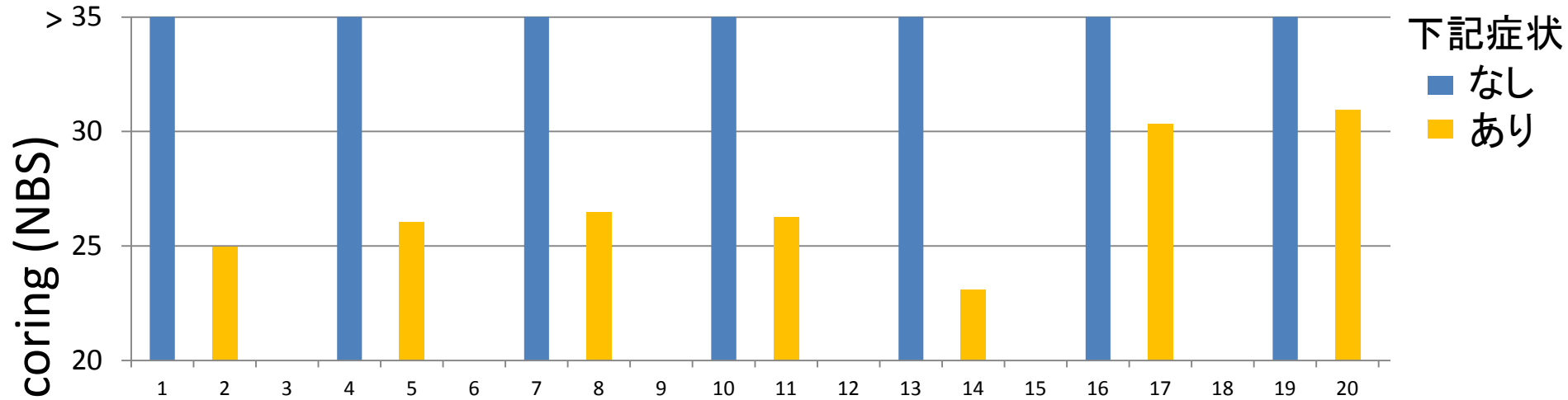


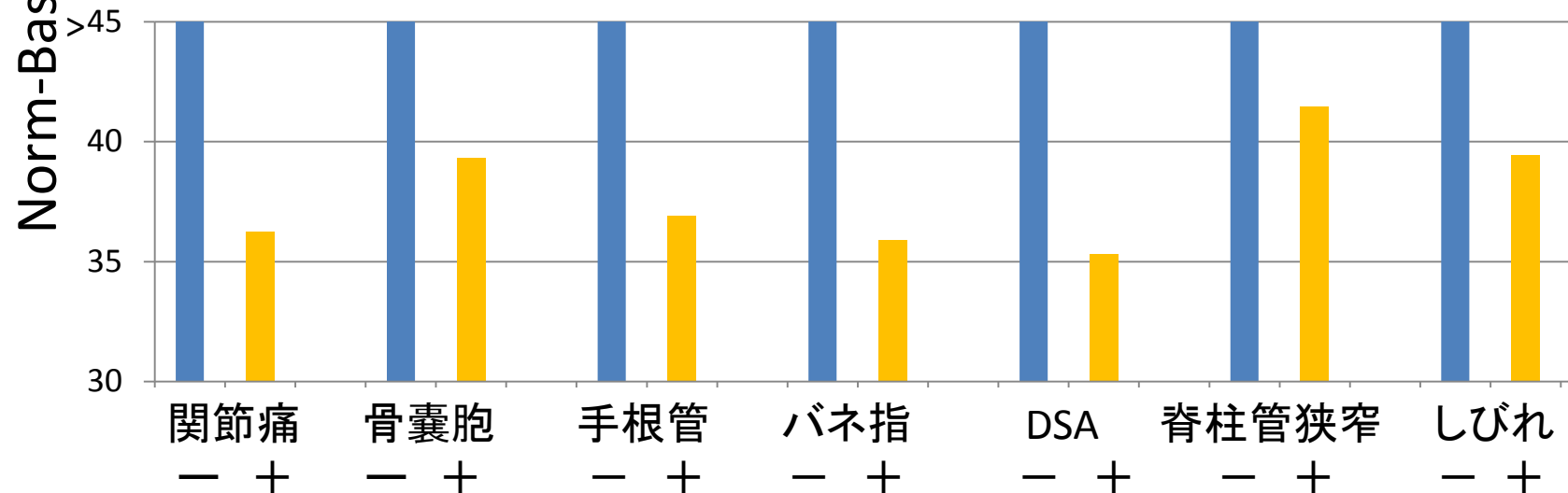
透析アミロイド症の各診断項目が患者に与える影響

(n=140)

身体機能スコア (SF-36 version 2)



体の痛みスコア (SF-36 version 2)



解説

	多関節痛	手根管症候群	ばね指	骨嚢胞	DSA	脊柱管狭窄症	しびれ
身体機能 (NBS)	+++ 25.0	++ 26.5	++ 26.3	++ 26.0	+++ 23.1	+ 30.3	+ 30.9
体の痛み (NBS)	++ 36.3	++ 36.9	+++ 35.9	+ 39.3	+++ 35.3	+ 41.5	+ 39.5
長期透析 (特異度)	+ 77%	+++ 93%	+++ 92%	++ 83%	+++ 89%	+ 79%	± 62%

・厚労省透析アミロイド症診断基準の各主要診断項目が、患者の身体機能・疼痛にどのように影響しているかを検討した。

・DSA(破壊性脊椎関節症)、多関節痛の存在が身体機能に、DSA、ばね指の存在が疼痛に大きく影響を与えていた。

・一方、20年以上の長期透析患者で症状を有した場合を透析アミロイド症の影響としたときの疾患特異度に関する検討では、骨のう胞・DSA(画像所見)と手根管症候群・ばね指の重要性も示唆された。

・透析歴・年齢の上昇に伴い身体機能・疼痛スコアの悪化を認めたが、多変量解析でも、透析アミロイド症の存在(主要臨床項目 ≥ 2 項目)が身体機能・疼痛双方に最も影響する因子であった。